志登茂川の環境と魚たち（平成24年度版）

二級河川志登茂川

流路延長：16.7km
流域面積：52.7km^2
対象流域：津市、鈴鹿市、亀山市

三重県津建設事務所

◎志登茂川で確認された外来種（魚類）たち

「外来種」とは、自然に分布している地域外から人為的に持ち込まれた生物のことをいいます。その内、生態系や人の身体などへの被害を及ぼす、又は及ぼすおそれのあるものの中から「特定外来生物」が指定されており、飼育や栽培、運搬、販売などが法律（外来生物法）によって規制されています。元々その川にすんでいる在来の生きものにとって、外来種は深刻な悪影響を及ぼし、生態系のバランスを崩す要因となっています。

淡水域、汽水域　全長3～5cm
流れの緩やかな水域

淡水域　全長25cm
流れの緩やかな水域

淡水域　全長30～50cm
流れの緩やかな水域

淡水域　全長30～80cm
流れの緩やかな水域

川の生きものが豊かであることは、その川が良好な環境であることを意味しています。これからも、多くの生きものが住む志登茂川の環境をみんなで協力して守っていきましょう。

【用語の解説】

汽水域：河川などの水域のうち、淡水と海水が入り混じる場所のことで、概ね河口の付近から満潮時に潮が上がってくる所までの範囲を指します。このような場所で生息を続ける魚類をここでは、『汽水・海水魚』として分類しています。

干　潟：潮汐の変化によって干潮時などに出現する、主に砂や泥によって形成されたある程度の範囲をもつ陸域のことを指します。ここでは、カニや貝類、ゴカイなど、多くの生物が生息しており、また、それらを食べに鳥類なども集まってきます。

ワンド：河川などの水域のうちで、池状の入り江になっている場所のことを指します。一部では川の本流とつながっていますが、その内部には流れがほとんど無く、稚魚や小さな魚も生息する穏やかなゆりかごのような水域です。

早　瀬：河川の水域のうちで、部分的に流れの速くなっている場所を指します。ここでは、その周りに比べると、水深が浅く、大きな石やレキが多く見られます。白波が立っていない様な、平坦な流れが続く場所は『平瀬』といいます。

淵　　：河川の水域のうちで、部分的に深みになった流れの緩やかな場所を指します。ここでは、その周りに比べて、小さな砂などが多く溜まっています。その形態によって、『Ｓ型淵（底質の柔らかい場所が掘れてできた淵）』や『Ｄ型淵（堰の上流が掘れてできた淵）』などに分類されます。

回遊魚：成長過程のうちで、ある定まった時期に、生息場所を移す魚を指します。ここでは、汽水域や海域と淡水域の間を移動する魚類を『回遊魚』として分類しています。

三重県津建設事務所　津庁舎
〒514-0003　津市桜橋3丁目446-34　4階
TEL：059-223-5200
FAX：059-227-8993
e-mail：tkenset@pref.mie.jp

このリーフレットは、平成24年度に実施した『河川水辺の国勢調査』の結果に基づいて作成しています。『河川水辺の国勢調査』は、河川の生物環境に関する基礎情報を収集し、今後の河川管理に役立てていくため、定期的、継続的、統一的に行っている調査です。
志登茂川では、平成24年度が第4回目の魚類調査となり、夏と秋の調査で42種類の魚が確認されました。これまでの調査で確認した総種数は、62種になりました。

【記号の説明】
河　　川：
国　　道：
鉄　　道：
主な河川関連施設：

◆◆◆ 志登茂川の下流部（汽水域）で見られる代表的な環境

大きな干潟が出現した干潮時の様子

満潮時の様子

干潟はカニや巻貝など多くの生きものたちがすんでいる大切な環境です。

干潟でエサ取りや休息をする水鳥

●●● 志登茂川の上流部で見られる代表的な環境

平瀬と河畔林の様子

河道内のツルヨシと早瀬の様子

周辺の水路は増水時に魚たちの隠れ家、逃げ場所として使われることがあります。

堰の下流に形成されたS型淵

▲▲▲ 志登茂川の中流部で見られる代表的な環境

今井井堰の上流に形成されたD型淵

堰が開放されてできた流水域

流れの小さなワンドは稚魚たちのゆりかご（再生産の場）として使われます。

周辺のため池からはブラックバスなどの外来種が流されてくることがあります。

ここに掲載した魚の写真は、全て平成24年度の調査で捕獲した際に撮影したものです。
また、写真内の(稚)は、発育段階が未成魚であることを示します。